



Photo: Namiko Kitaura

ヨコハマ・パラトリエンナーレとは、“障害者”と“多様な分野のプロフェッショナル”の協働から生まれる現代アートの国際展です。

このたび、参加アーティスト第2弾を発表致します。この機会にぜひ、ご取材、ご掲載の検討をお願い致します。

開催概要

ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014

テーマ： first contact -はじめてに出会える場所-

会期： 2014年8月1日(金)～11月3日(月・祝) コア期間 8月1日(金)～9月7日(日)

会場： 象の鼻テラス

主催： 横浜ランデヴープロジェクト実行委員会*、特定非営利活動法人スローレーベル

共催： 横浜市、2014年東アジア文化都市実行委員会

補助： 平成26年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

後援： 神奈川県

協賛： SHI/EIDO

特別協力： 神奈川県遊技場協同組合・神奈川県福祉事業協会

協力： アミューズミュージアム、アンスティチュ・フランセ横浜、株式会社協進印刷、ストロークコミュニケーション株式会社、代官山スタジオ、社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団、特定非営利活動法人横浜スタンダード協議会、株式会社ルシアン

公式ウェブサイト： <http://www.paratriennale.net/>

* 横浜ランデヴープロジェクト実行委員会・・・横浜市文化観光局、横浜市健康福祉局、スパイラル／株式会社ワコールアートセンター、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、神奈川新聞社

本イベントに関する内容のお問合せ先：ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014 開催事務局

〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目 象の鼻テラス内

MAIL: info@paratriennale.net TEL: 045-661-0602 FAX: 045-661-0603 担当：橋爪（はしづめ）

本イベントに関する報道関係の皆様からのお問い合わせ先：株式会社サニーサイドアップ

TEL: 03-6894-3200 FAX: 03-5413-3232 担当：金（きむ）、齊木（さいき）、細野（ほその）



ヨコハマ・パトリエナーレ 2014 第2弾発表アーティスト(6月11日分)

■sing a sewing (皆川 明 × SLOW LABEL 横浜)

ファッションブランド ミナ ペルホネンの生地に、港南福祉ホームの人々が心のままに刺繍を施し、アート性に富んだプロダクトへと転換するプロジェクト。施設の方々の笑顔と強い集中力によって生み出された、生命力溢れる作品を広く伝えていくことを目的としている。8月9、10日には、会場にてワークショップを開催予定。参加者にはミナ ペルホネンの生地に思い思いの刺繍を施してもらう。



〈参考画像〉

皆川 明 みながわ・あきら

ファッションブランド ミナ ペルホネン デザイナー。1995年に「ミナ(2003年よりミナ ペルホネン)」を設立。独創的なストーリー性のあるオリジナルデザインの生地による服作りを進め、国内外の生地産地と連携し素材や技術の開発に注力する。デンマーク kvadrat 社をはじめとする海外のテキスタイルメーカーにもデザインを提供。近年ではファッションに留まらず、インテリアデザインやそのためのファブリック開発も精力的に行っている。

港南福祉ホーム

横浜市港南区の閑静な住宅街にある障害者地域活動ホーム。メンバーの多くは、知的障害にダウン症、脳性麻痺、心臓疾患などを併せ持つが、豊かな感性とリズムにより、様々な作品を生み出す。その刺繍一針一針、織り物一織り一織りに組み込まれる真摯さは「人と人」「社会と社会」を繋ぐ架け橋となっている。

■music for the deaf

(真鍋大度+石橋素+照岡正樹+堤修一 × SOUL FAMILY)

振動や超低周波などを使用して触覚と聴覚など異なる感覚がクロスするような作品を生み出す真鍋大度+石橋素+照岡正樹+堤修一が「目の見えない人のための映像と耳の聴こえない人のための音楽」の創作を目指す。この夏は、聴覚障害のダンサー SOUL FAMILY との共同作業で、触覚デバイスを使った作品を発表する。



SOUL FAMILY 写真左から佐山信二(sayabow)、井手裕貴(Yu-ki)、伊藤雄一郎(It)

SOUL FAMILY ソウル・ファミリー

デブダンサー。全国で唯一聴覚障害者向けの国立大学・筑波技術大学のストリートダンスサークル「Soul Impression」から誕生したダンスチーム「SOUL FAMILY」。ストリートダンスの中でLOCK DANCEを中心にPOPやSOULなどの様々なDANCEで全国各地のダンスシーンで活躍する。

■「FIRST CONTACT」オープニングプログラムパフォーマンス

8月1日19:00~21:00に行われるオープニングプログラムにて、クリシー・喜陽、高津会、森田かずよによる「FIRST CONTACT」をテーマとしたダンスパフォーマンスを発表。

森田かずよ もりた・かずよ

二分脊椎症・先天性奇形・側湾症を持って生まれる。18歳より芝居を始める。表現の可能性を日々楽しく考えながら、義足の女優・ダンサーとして活動。「Performance For All People.CONVEY」主宰。近年、子ども達や障害のある人へのダンスやからだのワークショップ講師やコーディネートをを行う。第11回北九州&アジア全国洋舞コンクール バリアフリー部門 チャレンジャー賞受賞。



森田かずよ

■ペドロ・マシャド ダンスワークショップ

障害のある人とない人による4日間の集中ダンスワークショップを実施。

最終日に、ワークショップでつくった作品の発表を目指す。9月25日～28日開催予定。

講師：ペドロ・マシャド、クリシー・喜陽、高津会。

Pedro Machado ペドロ・マシャド (カンドゥーコ・ダンス・カンパニー共同芸術ディレクター)

フランス生まれ、その後ブラジルに移り、イギリスで教育を受けた。ランバン・センターでダンス教育の学士(優等)を得たあと、カンドゥーコ・ダンス・カンパニーに加わり、日本を含む30か国以上で踊り、教え、ダンス表現のレジデンスを9年間行ってきた。また、カンパニーの教育プロジェクトのために2本、その他にも2本のショートフィルムを監督した。2007年4月、ステイン・ニルセンとともに、カンドゥーコの創立者で芸術ディレクターのセレスト・ダンデカーの継承者として任命される。のち、カンドゥーコは北京とロンドンのオリンピック・パラリンピック大会に出演することとなる。

ペドロのクラスは楽しく、自由と創造性を伸ばす。誰も踊ることができ、ダンスが自己認識や気づき、他者との関わりを促進すると信じている。また、ダンスによって障害のあるアーティストをサポートすること、それがもたらさざらう可能性に魅せられている。



ペドロ・マシャド

■ミハイル・カリキス プロジェクト始動!

※今年度はリサーチのため来日。9月中旬にプレゼンテーション・イベントを開催予定。

Mikhail Karikis ミハイル・カリキス

ギリシャ生まれ、ロンドンを拠点に活動。私たちの生活を形づくる集合意識が、音によってどのように形成されているかを探求する作品を発表。社会のメインストリームに属さず、支配的な文化政治的慣習に疑問を投げかけるような職業に就いている人々などを作品化している。参加した主な国際展に、第19回シドニー・ビエンナーレ(2014)、あいちトリエンナーレ 2013、第54回ヴェネチア・ビエンナーレ・デンマーク館(イタリア、2011)など。最近の個展に、「不穏の子どもたち」(イタリア、2014)、「海女」(英国、2013)など。



<参考画像> Mikhail Karikis

Children of Unquiet, 2013-2014

ヨコハマ・パトリエナーレ 2014 4月22日発表分アーティスト

Namiko Kitaura、岩崎貴宏、真鍋大度+石橋素+堤修一+照岡正樹、目【め】、井上唯、クリシー喜陽、高津会、金井ケイスケ、くるくるシルクとその仲間達、カトリーヌ・マジ、イザベル・ボワノ、三角みづ紀、ダイアログ・イン・ザ・ダーク

※参加プログラム、プロフィール詳細は4月22日発行プレスリリースをご参照下さい。

公式ウェブサイト(<http://www.paratriennale.net/>)よりダウンロードいただくか、プレス窓口までお問合せ下さい。